

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276200207		
法人名	有限会社 ワイ・エイチ企画		
事業所名	グループホーム サンシティ掛川	ユニット名	1階
所在地	静岡県掛川市杉谷南一丁目15番地の13		
自己評価作成日	平成22年1月10日	評価結果市町村受理日	平成22年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成22年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にも書かれているとおり、安全で安心な生活が送れるように職員一丸となり支援するように心掛けている。その為、ヒヤリハット報告書と事故報告書の数が減っている。そして、職員は、利用者や家族との馴染みの関係を築き大切に、利用者が安全、安心して暮らせるように支援している。また、地域の祭典参加や防災訓練の参加、ご近所での買い物、散歩時のご近所との挨拶や日々の会話を通して、地域との交流の場を増やし、利用者が地域の一員として生活できるように支援を行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な新興住宅街に位置するホームは市立病院にも近く環境面は申し分ない。ホーム隣接の畑では季節になれば色々な野菜の収穫を楽しむことができ、併設されているデイサービス利用者と日当たりの良い玄関先での日光浴は利用者の楽しみでもある。ホームの運営は奇をてらうわけではなく、日々の生活を普段通りに営んでいるという印象である。また、職員は利用者に対しての声掛け等にも注意を払い、利用者の尊厳を傷つけないよう十分な配慮が見受けられる。利用者が、安心して落ち着いて暮らすことのできる環境を作り出そうとしている職員の努力が見て取れた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勤務者は、毎日朝礼時に理念を唱和して実践している。	事業所理念に地域との連携を謳っており、その理念を実践するため、職員は理念の唱和にとどまらず、地域が新興住宅地で地域の繋がりが希薄な環境にもかかわらず、地域との連携を図ろうとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭り及び事業所の行事並びに地域防災訓練等の交流を行っている。	ホームは自治会に加入しており、自治会長の声掛けもあり、地域の秋祭り等にも積極的に参加している。利用者の散歩時では近隣住民に挨拶を交わし、近隣の保育所児の散歩途中では、逆に笑顔での挨拶を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今現在は行なわれていないが、これからは交流の意味も含め地域貢献していきたいと考えてる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会合で話された事については、参考意見をサービスに使っている。	不定期ではあるが、地域防災等を議題とし運営推進会議の開催を行っている。参加メンバーは、地域包括担当者、自治会長等で市役所担当者の参加が見られない事は残念である。	運営推進会議の定期開催は勿論であるが、市担当者を含む様々な関係者の参加、及び活発な意見交換を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日々の連絡などはあまり無いが特別な事が起こったり行なう場合は、随時連絡をとり協力関係を築けるように取り組んでいる。	市主催でグループホームや有料老人ホームの懇談会に参加する予定で、密な関係を築こうとしている。必要時には、市役所にも出向き協力関係を築こうとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一同「身体拘束」を理解し身体拘束を行なわないケアを心掛けている。どうしても行なわなければならない場合は、本人と家族に説明を行い理解していただいている。	玄関居室等には鍵はかけられていない。徘徊等に関しても、見守りを基本に対応している。居室でのベッドからの転落予防に、本人と家族の同意の下、ベット柵を一部用いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待は行なわれていない。これから高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会をもちよりいっそう虐待について徹底していきたいと考える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場では研修していない。これから勉強会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明しており、理解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会を利用して入居者及び家族に要望を確認している。	投書箱は設置されているがほとんどクレーム等の意見は入っていない。利用者や家族等の意見・要望は大部分口頭で行われており、管理者と職員は利用者が要望を言いやすい環境を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に意見等を聞き可能な範囲で反映させている。	月1回ミーティングを行い意見交換を図っている。ミーティング以外でも、管理者は家庭的な雰囲気を作り出し、言いやすい環境となるよう努力している。しかし、管理者の忙しさのため、職員の全ての思いを汲み取る事はできていない可能性も否定できない。	家庭的な雰囲気で見出しやすい環境であると見て取れたが、管理者にもう少し時間的余裕が与えられ、職員の隠された要望にも目が届くような体制となるよう期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力はしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を持ち、研修内容を他の職員に回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一部の職員に限られるが、同業者との会合を通じて交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お買い物に行くとき等、一緒に行き、不安なことや心配なことがあるか、本人に話しかけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望等に耳を傾けながら関作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や片付けなど職員と一緒に手伝いをしてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方に時間がある時は、面会に来ていただけるようお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他の利用者の面会の方に話し掛けられる様な事があっても仲間に入れてもらえる様をお願いしている。	利用者家族が友人コーラスグループを引き連れ、面会兼ボランティアに訪れたり、利用者自身が馴染みのスーパーにホームの食材を買いに行く支援をしたりと枚挙に暇がない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物をみんなでたたんでもらったり、朝4～5名で散歩に行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談がある毎にフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の要望をできる限り実現の方向に努力している。	利用者と口頭での意思疎通が難しい場合でも、声掛けや観察を主に、利用者の表情等から思いを汲み取ろうとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や生活歴の資料を参考に入居者の方の暮らしを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、体調等が違うので本人のペースに合わせて実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員が機会ある毎に話し合い計画作成を実施している。	利用者と職員の日々の関わりの中からその内容を基に、月1回のスタッフミーティングに生かし、介護計画の作成を行っている。本年からは新たに職員全員を対象に利用者それぞれの担当を決め、利用者の日々の変化を見逃さない細やかな介護計画の作成を目指している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特に記録は細かいことが良くわかり、夜勤時には参考になっているし他の点でも役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	研修等を学んだ職員から常に最新のサービスについて学んでおり実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を利用して本人を楽しく過ごせるように日頃レク等に生かしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時からかかりつけ医との連携を取り支援を受けている。	ホームに自宅が近い利用者は通いやすいかかりつけの医院に、また自宅が遠い利用者はホームに隣接の市立病院にと、協力医院に利用者や家族の同意の下、適切な医療を受けられる体制である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃、申し送りをしっかり看護師と取り、連携し業務に抜けのない様に実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換を密にして早期に退院し本人の負担の掛からない様に心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族及び本人に説明すると共に職員にも教育している。	終末期における対応については、入居時に利用者・家族と十分な対話をし、個々において文章による確認ができています。	利用者の重度化・終末期についてホームとしての方針は確立されている。今後は終末期や看取りに関して経験不足の職員のために、指導・教育が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、教育も防災訓練時に実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度以上訓練を実施し、地域の連携を取っており訓練にも参加している。	自治会の協力のもと、年2回の訓練を実施している。昨年8月の静岡地震時においても、自治会長より早々の安否の確認連絡があり、災害体制においては万全である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導が必要な方を誘導する時「トイレ…」などと直接的な言い方をしない様になっている。 利用者の方がした事に対し否定的な言葉対応をしない様になっている。	利用者の個人情報においては十分な管理をしている。また、個人のプライバシーを尊重し、排泄時・入浴時等きめ細やかな対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「～しましょう。」などとこちらが決め付けた言い方ではなく、「どうしますか？」などと最後に「？」が付くような対応を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人にあつた生活をし、強制することなく支援し続けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お風呂あがり等、服を着替える時には一緒に選ぶ。 女性には、口紅をつけたり自分1人でできる方には、自分でやらせてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けは、利用者が主となり職員は、見守り支援している。 食事は、利用者と職員一緒にテーブルに座り雑談しながら食べている。 片付けもすべて一緒に行く。	配膳から片付けまで、利用者と職員が協力し合い行っている。また、日曜日は利用者と職員が共に料理をし、『作る喜び』『食べる喜び』を共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が足りないと感じた利用者には「お茶」にこだわらず、その人が1番に飲んでくれるようなもの(砂糖湯等)に工夫したりする。 食事が自己摂取できない方は、一部介助したり「この～がおいしいですよ。」と声掛けしたりする。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方には声掛けをし出来ない方は、職員と一緒に洗面台まで行き見守る、又は、介助する。 歯磨きが出来ない方は、お茶を使って口の中をきれいにしてもらう様になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の動きを見てトイレ誘導すると共に記録を見て声掛けを実施して支援を行なっている。	排泄に関しては日々の個人記録を元に、きめ細やかな声掛けを行っている。また、誘導する際も他の利用者に、気付かれぬよう適切な対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を適時行なったり、軽い運動や散歩を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人希望にあわせ、何日も風呂に入らないということの無いように実施している。	入浴に関しては特に定まった入浴日を設けず、利用者の希望に沿って入浴日・入浴時間を設け自由に入浴できる体制である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせて体の調子を見て声掛け介助をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書や看護師の指示で理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好きな事を一日一回以上は行なうようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くへの外出はできるだけ実施しており他への外出は、年間の行事計画で実施している。	季節・時間に関わらず、利用者の希望に合わせて自由に外出支援を行っている。また、地域の行事に合わせ、ホーム全体の年間外出行事を定め、積極的な支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者のお金は事務所金庫に預かってあり、本人が買い物をしたときは一緒にする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いろいろの行事だよりを各家族に郵送している。また、本人が自ら電話をしている。(職員見守りの中で)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に掃除をしたりトイレ等は消毒をしたりして常にきれいで清潔であるよう努力している。又、花等を飾り季節感を出している。	居間等の共有空間は清潔に保たれている。特に、トイレ・浴室は清潔で快適であった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでテレビ視聴する人、ソファで居眠りする人、昔話をする人。皆、思い思い自由な行動をしているのでその安全であるように見守りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内へは、家から使い慣れたものを持ってきてあり、自由に動かしている(いす、テーブル等)	居室は十分な広さがあり、各室の日当たりも良い。また、仏壇や家族の写真等もあり、とてもアットホーム的な雰囲気であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人その人にあった事をさせていただき安全かつ生活の質を落とさないようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276200207		
法人名	有限会社 ワイ・エイチ企画		
事業所名	グループホーム サンシティ掛川	ユニット名	2階
所在地	静岡県掛川市杉谷南一丁目15番地の13		
自己評価作成日	平成22年1月10日	評価結果市町村受理日	平成22年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成22年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にも書かれているとおり、安全で安心な生活が送れるように職員一丸となり支援するように心がけている。その為、ヒヤリハット報告書と事故報告書の数が減っている。そして、職員は、利用者や家族との馴染みの関係を築き大切にし、利用者が安心して暮らせるよう支援している。
また、地域の祭典参加や防災訓練の参加、ご近所での買い物、散歩時のご近所との挨拶や日々の会話を通して、地域との交流の場を増やし、利用者が地域の一員として生活できるように支援を行っている。個別ケアを大切に、あきのこない生活ができるように支援するように努めている。各々の生活層や趣味、興味を持っていることを観察や会話、家族からの情報により知り、利用者それぞれのその方らしい時間の過ごし方ができるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時、管理者と職員で理念を唱和し、共有するようにしている。職場アンケートでも、管理者が職員に対して理念の理解を問い、理解に努めたり、管理所より職場面接時、理念の説明を受けている。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭り時、地域の参加者に対し、グループホーム前での接待を行っている。地域の防災訓練にも、職員、入居者共々、積極的に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今現在は行われていないが、これから地域と交流の意味も含め、実施していこうと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会での意見を職場内でのミーティングで職員と共有し、職員の意見を聞いたうえで、サービス向上を目指している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日々の交流はあまりないが、特別なことが起きた場合等には、随時連絡をとり協力関係を築けるように努力をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを目指している。どうしても身体拘束を行わなければいけない場合は、本人と家族に対し説明を行い、理解を得ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待は行われていない。これから、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持つようにしていきたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内でそれらのことを学ぶ機会は、ほとんどないが、職員各自で学ぶよう努力をしている。これから、それらを活用でき支援できるように、勉強会等を開く予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、理解されるまで契約について十分な説明を行い、同意書にサインと捺印をいただいている。契約改定時も同様に十分な説明を行い、同意書にサインと捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階入り口に『意見箱』を設置し、いつでも意見を投稿できるようになっている。入居者には、日頃の会話の中で意見を聞き取る。家族面会時に、家族からの意見も聞き、職員会議などで意見を反映するようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場で、職員の意見や提案を聞いている。職場面接もあり、職員が意見を言いやすくしている。それらの意見や提案をできる限り、反映できるように他の職員とも話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場アンケートや職場内面接で意見を聞き、職員一人ひとりのモチベーションを上げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を設けるため、外部からの研修案内を回覧している。それぞれの内容に興味を持った職員が参加している。内部研修として、同法人内の別施設に研修に行くこともある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を持ち、お互いが向上できるように話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との日常会話の中から困っている事などを読み取り、不安を取り除く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られた時などに、若い頃の様子を聞いたり、家でのご過ごし方を聞いたりしてプランを立てている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族とよく話をして、変化があればその都度対応を変えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができる様な事は、声を掛け、拒否が無い時は、一緒に行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	変化があればすぐに連絡し、一緒に考えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出などもできている。 面会の方も気軽に来られるようになっていく。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴の方との話には、間に入り話ができる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時、これからの関係の中で困った事などがあれば気軽に相談してくださいと伝えている。 相談があった時は、相談にのるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中や生活していくうえで本人の考えを聞きとるようにしている。聞き取れた内容は、申し送り帳や介護記録に記入し、職員同士でシェアしている。困難な場合は、ご家族に意見をうかがったり生活暦を調べる等し本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に生活暦を記入していただいている。日常会話の中でも馴染みの暮らし方や生活環境などを知ることができるので、介護記録や申し送り帳に記入し職員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタル測定を行い心身状態の把握に努めている。1日の過ごし方や有する力に関しては、日々の会話や行動をよく観察している。それでもわからない場合は、声掛けなどにより本人に行ってもらおうこともある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がどのように暮らしたいか、日常会話中で聞き出すように努め、家族面会時には、家族の要望も聞くようにしている。主治医等の意見も取り入れられるように、医師との良好な関係作りに努めている。それぞれの意見を計画に盛り込んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別記録に記入している。その個別記録を他職員が読み情報を共有している。個別記録を基に、介護記録やモニタリングに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に、利用者に気配り目配りをし、そのときのニーズに合わせて対応するように努めている。ドライブや買い物等が、介護計画書に含まれていなくても、その日の様子により行われることが多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全には、職員一同気をつけている。散歩や買い物、地域の方との挨拶や会話を通し、本人がサンシティ掛川の暮らしを豊かにできるように、職員自ら地域との良好な関係を築けるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。事業所として、職員が受診に付添うように支持している。職員も家族の希望を受け、勢いづいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの役割として、個々の利用者が適切な受診を受けられるように支援しているが、看護が必要な場合は、医療側に任せている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療できるように家族と連絡を取っている。入院時、なるべく多く病院を訪れ、医師や看護師と話す機会を持ち、情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見取り同意書を家族よりいただいている。見取り同意書を記入時、こちらからの十分な説明を行い、ご家族の意見も十分に聞いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署にお願いをして定期的に救命講習を行っている。緊急時に備え、マニュアルも作成済みである。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内防災訓練を年2回(5月、11月)に行っている。 地域との協力体制は、自治会長を通してお願いしている。平成21年度の地域防災訓練(9月、12月)に、職員と利用者で参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの違いの尊重、挨拶や呼びかけ、さりげない介助を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出や買い物等、利用者が希望を表したりすることを大切にして、買いたいものが選べるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを保ちながら、見守り、一緒に行う支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が介助しすぎないように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	気配りをしながら、おいしそうな盛り付けをしたり、ゆったりと食事をしていただく。利用者の人格を尊重し、盛り付けや食器拭き等をしてもらう。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みや摂取量、水分摂取量は把握している。 栄養バランスは、把握していない。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の手入れ、食後のうがいは、日常的に声掛けをしている。必要な方に対しては、見守りや介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を決めて、トイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	少しでも身体を動かす為に、散歩などを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛けをして、入居者が入りたい時には、入浴し入りたくない時は無理に入浴させていない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れていたら声掛けをして、居室誘導をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を見て、理解するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌を歌ったり、塗り絵をしたり、利用者が退屈しないようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブに行ったり、買い物に行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、施設内事務所にて管理しており、利用者希望に応じて職員と一緒に買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じ、職員付き添い家族に電話をしたり、職員と一緒にポストに手紙を出しに行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ブラインドなどで光の調整をしたり高齢者にあつた快適な温度を保っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室にて裁縫やテレビを見たり、他入居者と話をしたり、ホールでは、みんなで歌を歌ったり塗り絵をやり、過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、思い思いの写真やぬいぐるみが飾られ、使い慣れた筆筒などが持ち込まれている。仏壇や冷蔵庫などを持ち込んでいる利用者もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には、手すりが設けられている。 トイレや各居室には表札が置かれ、自分の居場所が分かるようにしている。		